

農 林 水 産 大 臣 賞

受 賞 者 とくていひ えい りかつどうほうじん 特定非営利活動法人 のうらくえん あがた農楽園
(栃 木 県 足 利 市)

【 高齢者も障がい者も若者も みんな農業で笑顔になる 】

1 むらづくりの動機と背景

足利市 あがた 県 地区で、後進に経営を譲り始めた農業者が、働く意欲はあっても機会が少ない障がい者や高齢者に気づき、「働きたいのに機会がない人、働いているのに最低賃金にも届かない人など、いろいろな人が働く喜びを感じながら交流できる場所をつくりたい」との思いから、自分達に何かできることはないか考えるようになった。

この地区に、ほ場整備の計画が持ち上がったことで、行政関係者と定期的に話し合いの場がもたれるようになり、これまで抱いていた思いについても意見交換を行った。

こうした意見交換を進めていく中で、使われなくなった農地やビニールハウスを再生し、農業を再開することで、障がい者や高齢者のための新たな就労の場を確保でき、地区の元気創出になるのではないかと考えたに至った。

関係者との打合せを継続して行った結果、この活動を持続的に行うために、特定非営利活動法人を設立することとし、法人の考え方や活動の骨格を十分に話し合い、活動内容がわかるように見える形として「あがたの未来プロジェクト」をまとめた。

次に、このプロジェクトに関する住民の合意形成を得るため、近隣住民に声をかけ、説明会を開催したところ、法人設立要件を満たす賛同が得られたため、令和2年12月に特定非営利活動法人あがた農楽園を設立した。

2 主な取組内容と成果

- 社会福祉法人（就労継続支援B型事業所）と連携し、会員が障がい者（10名）を指導しジャガイモ、サツマイモの栽培や出荷調整作業を行っている。収穫を行うほ場は地元中学生等の農業体験の場ともなっている。

障がい者には、畑の土づくりから栽培、収穫、加工・販売まで全ての作業を一緒に行うことで、一から作物を育てる楽しさや苦労だけでなく、報酬を得る喜びを実感してもらっている。

障がい者からは「自然の中での作業で、夢中になり楽しい」、施設の指導員からは「屋外の作業は心身に好影響でありがたい」との感想を頂いている。

- 障がい者に加え地域の高齢者（9名）とも連携し、スナップエンドウの栽培、販売による就労機会を創出している。

スナップエンドウは、収穫終盤に収穫量の減少や規格外品の増加などのため、社会福祉法人により、ピクルスの商品開発が行われ、新商品として販売している。

今季からは、会社を定年退職した農場長が現場を切り盛りするなど、栽培管理の充実にも努めている。

- 市から管理を受託している古墳周辺の市有地に、景観向上のためにコスモスを植栽した。地元幼稚園や周辺住民に開放したところ、地域や世代を超えた交流が促進されている。

幼稚園生からは、各自好きなコスモスの摘み取り体験を楽しんだお礼として、思い出の絵が届けられた。

花が咲く期間中の摘み取りを無料で開放したことで、SNSでも評判になり、周辺の市町からも多くの観光客が訪れ、古墳の知名度の向上にも貢献した。

- 県駅南口にある公園のイルミネーション装飾を実施し、その点灯式を自治会活動と共同で実施するなど冬の恒例行事として定着している。

令和4年度からは、規模を拡大し、市民に電球を飾る段階から楽しんでもらう「市民参加型」としたところ、成人の日には晴れ着姿の女性が記念写真を取りに来てくれる程に評判となった。

これらの活動が、足利市の田園景観の保全や新たな景観を作る取り組みとして高く評価され、令和4年度足利市建築・景観奨励賞を受賞し、会員の大きな励みとなった。

3 活動状況



法人設立総会の様子



障がい者と一緒にサツマイモ定植作業



中学生の農業体験学習



スナップエンドウの商品開発



コスモス畑での摘み取り体験



イルミネーション点灯式でのイベント